

鹿児島大学大学院理工学研究科

地域コトづくりセンター

令和4年度 事業実施報告書

地域コトづくりセンター
令和4年度事業実施報告書

<目次>

1. センター長あいさつ	1
2. 事業報告	
2.1 事務局管轄	
1) 主催・共催事業	2
2) 地域コトづくりセンターシンポジウム	3
2.2 研究部門	
1) 研究会一覧	6
2) 研究会活動報告	8
2.3 産学連携事業	
1) 企業との共同研究講座	17
2) SDGs推進事業	18
3) 地方自治体との包括連携協定	20
2.4 教育・開発部門	
1) 中央実験工場活動報告	21
2.5 研究インターンシップ	
1) 派遣実績	23
2) 企業説明会、相談会、報告会	23
3) 協力企業	24
4) ジョブ型インターンシップ	24
5) 九州半導体産業人材育成等コンソーシアム	25
6) コーディネーター会議等活動報告	26
3. 会議報告	
1) 運営会議	28
2) 研究部門会議	30
3) 事務局定例会議	31
4) 教育・開発部門会議	33
<附録・資料>	
I. 鹿児島大学大学院理工学研究科地域コトづくりセンター組織規則	35
II. 令和3年度地域コトづくりセンター組織図	38
III. 令和3年度地域コトづくりセンター研究部門協力教員名簿	39

1. センター長あいさつ

令和4年度の「地域コトづくりセンター」は、コロナに振り回されながらも着実に活動を進めることに尽力した1年でした。文科省主導で始まったジョブ型研究インターンシップ、九州経済産業局主導の半導体人材育成事業さらにはDX人材育成など、社会的な要請によって大学に求められる人材も変わってきています。これらの事業の窓口として説明会等に積極的に参画してきました。またスタッフおよび理工学研究科の教員の協力の下、シンポジウムや研究インターンシップを実施することができました。詳細は本報告書に記載しておりますが、以下にその一端をご紹介します。



研究部門は、理工学研究科で実施されている研究の特色と南九州地域における新たな産業創出の可能性に鑑み、①地域創生・安全工学、②環境・エネルギー、③医療・福祉工学、④先進物質材料開発、ならびに⑤天文・宇宙の5つの研究分野を設け、学外からの依頼・相談等のニーズに理工学研究科の教員の有するシーズとのマッチングを図っています。研究部門には本学教員と地域の企業、支援者で構成する10の研究会が設置され、活発な研究活動が行われています。この他、共同研究講座「CRS 資源循環共同研究講座」、SDGs推進事業「海×島 SDGs プロジェクト」の研究も進めています。「海×島 SDGs プロジェクト」は大学のミッション実現戦略分に採択され全学的なプロジェクトとして活動を開始しました。各研究会の活動につきましては、コトづくりニューズレターで紹介していますのでぜひご覧ください。ニューズレターはコトづくりセンターのホームページで公開しています。

教育・開発部門は、センター附属の中央実験工場を活用し、学内の教育実習や依頼加工はもちろん、企業等の要望に応じた最新機器の開発や「IoT オープン実証ラボ」などの技術者教育等を行っております。マスコミでも取り上げられましたAI・IoTを用いた郡元キャンパス中央食堂「混雑予想」システムは、2022PCカンファレンス最優秀論文賞を受賞しました。その他、地域企業との共同開発プロジェクトも継続的に進めています。

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）、ジョブ型研究インターンシップおよび地元企業と連携した博士前期・後期学生の研究インターンシップの斡旋も当センターの重要な役割の一つです。本年度はC-ENGINEについてはマッチングに至らず実績が0となりましたが、ジョブ型研究インターンシップは共同研究型で1名の実績がありました。また地元企業で新規に研究インターンシップの受け入れがあり、マッチングを経て1名が参加しました。

これからも、当センターは、設立理念に基づき、地域の様々な要請に応えるべくさらにプレゼンスを高めていきたいと思っております。新たな発見やアイデアの種をお持ちの方、未だその種をお探しの方、私共地域コトづくりセンターは、皆さまの種を将来の大輪の花に繋げるお手伝いをいたします。是非、気軽にお立ち寄りいただき、ご相談いただければ幸いです。

鹿児島大学大学院理工学研究科
地域コトづくりセンター長 二宮秀與

2. 事業報告

2.1 事務局管轄

1) 主催・共催事業

令和4年度地域コトづくりセンター主催・共催事業を下記の通り実施しました。

1. 令和4年第1回度研究インターンシップ web 報告会&説明会

【開催日】 令和4年4月28日(木)15:00-15:40

【場 所】 オンライン (Zoom)

【主 催】 地域コトづくりセンター

【参加者】 9名 (工学部6名、理学部3名)

【プログラム】 インターンシップ I・IIについて

C-ENGINE 事業説明

研究インターンシップ参加学生による報告

(理学/化学プログラム M2)

鹿児島大学大学院 理工学研究科
令和4年度
研究インターンシップ
Web 報告会&説明会
2022 4/28 (木)
15:00~15:40

- 開催形式:オンライン(Zoom)
- 対 象:学部生(B3、B4)、修士、博士(研究インターンシップに興味のある方ほどなため)
- 主な内容
15:00~ 鹿児島大学の研究インターンシップについて
15:10~ 一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE) 事業紹介
15:20~ 昨年度研究インターンシップ参加報告 (理学/化学プログラム M2)
15:35~ 質疑応答

※当日の流れは変更になる場合があります

■ お申込みはこちら！
【申込〆切日】
4/26(火)
<https://forms.office.com/r/3aC4pk9vg>

※受付済の方には事務局より Zoom ミーティング ID をお送りします。
※メールアドレスの入力ミスにご注意ください。
※ZoomID が届かない等、何か不具合がありましたら下記へお問合せください。

この時期に話を聞くとチャンスが広がるよ！

3-D*イチャが何でも質問に答えるよ、気軽に参加してね♪

実際に参加した先輩に直接話を聞くチャンス！

■ お問い合わせ 鹿児島大学大学院 理工学研究科 地域コトづくりセンター 担当:橋, 福田
TEL:099-285-7689/7363 建築学棟1号館1階
メール:kotozukuri@ens.kagoshima-u.ac.jp URL:<https://kotozukuri.ens.kagoshima-u.ac.jp/>

2. 令和4年第2回度研究インターンシップ web 報告会&説明会

【開催日】 令和5年2月13日(月)15:00-15:40

【場 所】 オンライン (Zoom)

【主 催】 地域コトづくりセンター

【参加者】 26名 (工学部10名、理学部13名、不明3名)

【プログラム】 インターンシップ I・IIについて

C-ENGINE 事業説明

研究インターンシップ参加学生による報告

(理学/物理宇宙プログラム M1)

鹿児島大学大学院 理工学研究科
令和4年度
研究インターンシップ
Web 報告会&説明会
2023 2/13 (月)
15:00~15:40

- 開催形式:オンライン(Zoom)
- 対 象:学部生(B3、B4)、修士、博士(研究インターンシップに興味のある方ほどなため)
- 主な内容
15:00~ 鹿児島大学の研究インターンシップについて
15:10~ 一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE) 事業紹介
15:20~ 昨年度研究インターンシップ参加報告 (物理/宇宙専攻 M1)
15:30~ 質疑応答

※当日の流れは変更になる場合があります

■ お申込みはこちら！
【申込〆切日】
2/9(木)
<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=9a1234567890>

※受付済の方には事務局より Zoom ミーティング ID をお送りいたします。
※メールアドレスの入力ミスにご注意ください。
※ZoomID が届かない等、何か不具合がありましたら下記へお問合せください。

この時期に話を聞くとチャンスが広がるよ！

3-D*イチャが何でも質問に答えるよ、気軽に参加してね♪

実際に参加した先輩に直接話を聞くチャンス！

■ お問い合わせ 鹿児島大学大学院 理工学研究科 地域コトづくりセンター 担当:橋, 白原
TEL:099-285-7689/7363 建築学棟1号館1階
メール:kotozukuri@ens.kagoshima-u.ac.jp URL:<https://kotozukuri.ens.kagoshima-u.ac.jp/>

2) 地域コトづくりセンターシンポジウム

【開催日】令和5年2月19日(日)13:00-17:00

【場 所】奄美市市民交流センター 多目的室 およびオンライン (Zoom)

【共 催】ミッション実現戦略分プロジェクト

「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の
革新的融合モデル」

(国際島嶼教育研究センター・大学院理工学研究科地域コトづくりセンター)

【参加者】111名(会場51名、オンライン60名)

全学プロジェクト・ミッション実現戦略分「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」のキックオフシンポジウムとして「奄美大島における『生物文化多様性』と『地方創生』」を開催。国際島嶼教育研究センターとの共催、奄美市が後援という形での実施となった。本プロジェクトは、国際島嶼教育研究センター（島嶼研）と理工学研究科（理工研）が主体となる全学的プロジェクトで、令和4年度より6年計画で推進されている。



シンポジウムでは、島嶼研を中心とする多様性保全部会からは奄美を対象に森林モニタリング、リュウキュウアユ、ダニ媒介感染症、漁業経営について、理工研を中心とする地方創生部会からは奄美海域を中心にビッグデータ、海洋プラスチック汚染、スマート水産業、再エネについての報告がなされました。

会場には高校生を含め51名、遠隔では60名の参加があり、多くの質疑と共に、今後の奄美における多様性保全と持続的発展の融合についての議論が活発に行われた。また会場で回収したアンケートには参加者の約75%から回答者があり、「学校で、自分の興味関心を持ったことを調べてどう解決するか導き出す授業があり、今日の先生方のお話を聞いて目標を設定することができました」

「地域活性のために、一つの分野だけでなく様々な分野での協力が重要であると感じた」「可能性を感じる発表にわくわくし、生物文化多様性と地方創生は子供たちに教授したい(小学校教諭)」「役所

の人間も協力してプロジェクトを行うとよりよい奄美になると思います。この講義を多くの島人が拝聴したら意識も変わると感じました」など、様々な学びを得ることができたという意見とともに「もっと広く宣伝し、参加を呼び掛けて欲しい。」「先生方の発表が20分では短いと感じた。発表者を減らして、持ち時間を長くしてはどうか」「全般的にテーマが散漫に過ぎるようになります。テーマの絞り込みが必要だと思います。」等、次回のシンポジウムへの期待と課題が提示されたものもありました。



写真1. 岩井理事(奄美群島拠点長)による開会の挨拶



写真2. 高宮島嶼研センター長による趣旨説明



写真3.山城教授による発表の様子



写真4.加古准教授による発表の様子



写真5.全体討論の様子



写真6.質疑応答の様子

奄美群島における「生物文化多様性」と「地方創生」

主催：ミッション実現戦略分プロジェクト
「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」
(国際島嶼教育研究センター・
大学院理工学研究科地域コトづくりセンター)

後援：奄美市

令和5年2月19日(日)13:00~17:00

12:30~受付開始

会場：奄美市市民交流センター 大多目的室

参加無料 / 事前申込制

オンラインでも参加できます



鹿児島大学公式マスコットキャラクター
さつつん

岩井久 開会挨拶
鹿児島大学理事

高宮広土 趣旨説明
国際島嶼教育研究センター長

川西基博 『奄美大島の森林をモニタリングから理解する』
植物班(鹿児島大学教育学部)

久米元 『リュウキュウアユの生活史に関する研究』
水圏班(鹿児島大学水産学部)

安藤匡子 『奄美大島のマダニとダニ媒介性感染症』
陸上動物班(鹿児島大学共同獣医学部)

鳥居享司 『島内連携の確立による漁業経営の振興』
地域研究班(鹿児島大学水産学部)

14:30 質疑応答

14:40 休憩(15分間程)

山城徹 『地域ビッグデータを活用した、水産・海洋産業のスマート化と島嶼部での
再エネ高効率利用に関する研究』
(鹿児島大学大学院理工学研究科)

加古真一郎 『AIとリモートセンシングによる海洋プラスチック汚染研究』
(鹿児島大学大学院理工学研究科)

江幡恵吾 『漁海況予測に基づくスマート水産業の実現に向けて - 漁業者と連携した
共同調査の取り組み -』
(鹿児島大学水産学部)

市川英孝 『離島における再エネ活用の地域利用について』
(鹿児島大学法文学部)

16:15 質疑応答

16:25 全体ディスカッション

※プログラムは変更になることもあります

お申し込み

■お申し込み期限：令和5年2月13日(月)

■右のQRまたは下記のメールアドレスからお申し込みください。

お問合せ先

■鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
・電話：0997-69-4852
・メール：amamist@cpi.kag@shima-u.ac.jp



2.2 研究部門

1)令和4年度地域コトづくりセンター所管研究会一覧表

令和4年4月1日

設置分野	研究分野長	研究会名	代表者	研究会概要
地域創生・安全工学	酒匂 一成 (海洋土木工学)	コンクリート構造物の診断技術研究会 (H29.1.10～)	審良 善和 (海洋土木工学)	コンクリート構造物に対する維持管理の重要性に鑑み、建設後の構造物の状態を正しく診断するための既存技術の応用及び新技術の開発研究を行うと同時に地元で活躍する土木技術者の技術力向上を図る。
		加工計測IoT研究会 (H29.2.1～)	熊澤 典良 (機械工学)	機械加工の高度自動化を行うための加工計測、状態監視、制御、IoTを統合するシステムの研究を産学官で推進し、そのノウハウにより県内企業の生産性の向上に寄与することを目指す。
		鹿児島版地盤情報データベース研究会 (H29.4.1～)	酒匂 一成 (海洋土木工学)	これまでに県内のボーリング等のデータ収集に取組み、これらのデータを元に鹿児島県の任意の三次元地盤図を表示・活用するためのシステムの構築などを行ってきた。構築してきたデータベースの内容向上や土木技術者などを対象にした利活用方法について検討し、システムの実用化を目指している。
		地域特性を活かした資源循環システムによる新しい肥・飼料の開発研究会 (R01.10.1～)	山口 明伸 (海洋土木工学)	焼酎粕などの地域特有の残渣類を、沿岸域の漁場環境向上のための肥料や、養殖魚類あるいは家畜の飼料とする、新しい資源循環システムを提案することを目的とする。
		出水麓環境デザイン研究会 (R03.4.1～)	木方 十根 (建築学)	本研究会は鹿児島県内で唯一日本遺産に登録されている「武家屋敷群・麓」におけるまちづくりを公・民・学の共創で支援するプラットフォーム(地域中間組織)としての役割を果たすことを目的とし、空き家の再生や町並み環境整備に対する支援によって定住促進と観光活性化を図り、地域創生を推進するものである。

設置分野	研究分野長	研究会名	代表者	研究会概要
環境・エネルギー	鷹野 敦 (建築学)	ライフサイクルハウス研究会 (H29.7.1~)	鷹野 敦 (建築学)	木材のみで建物を作る「Jログ工法」を基盤とし、木材の特性を最大限に活かした”人”にも”自然環境”にも最適な新しい木質工法システム(ライフサイクルハウスシステム)の研究開発を行う。
		有人離島における再生可能エネルギーを活用した地域社会モデル研究会 (H29.7.1~) 【休会】	山城 徹 (海洋土木工学)	本土から遠く離れた小離島のような厳しい地理条件に置かれた地域が抱える様々な問題を解決し豊かな地域社会を形成するため、再生可能エネルギーの効率的な作り方から貯め方、使い方を研究することを目的とする。
医療・福祉工学	伊東 祐二 (化学)	HTSバイオ分子設計研究会 (H28.3.1~)	伊東 祐二 (化学)	より高速で確実な機能性分子の創生に向け、広範囲な分子ライブラリーからの機能性分子の特定における、次世代シーケンサーを使ったHTS(高速配列解析)技術の導入と高度化、さらにその普及を目的とする。
先進物質材料開発	二井 晋 (化学工学)	食品加工開拓研究会 (H29.1.16~)	二井 晋 (化学工学)	卵白や黒酢等の食品加工を視野に入れた独自の粉体化と経験的に効能がある素材での機能性成分の特定、抽出、複合化等の技術に興味をもつ南九州地区の産学官の交流・討議の場とする。
天文学宇宙	片野田 洋 (機械工学)	鹿児島ハイブリッドロケット研究会 (H29.1.10~)	片野田 洋 (機械工学)	小型ハイブリッドロケットに必要な各種要素技術に関する情報収集と各自技術の開発を行い、県内企業とも協力しながら鹿児島県産小型ハイブリッドロケットの製造と打ち上げを目指す。

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		コンクリート構造物の診断技術研究会
代表者	氏名	審良 善和
	所属	海洋土木工学
設置分野		地域創生・安全工学
会 員 数		計 41 名 (学内 3 名・学外 38 名)
<p>➤ 活動実績</p> <p><u>特別講演会および技術講習会の開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● インフラ施設の維持管理に関する講演会の開催（対面）、2 ● インフラ施設の維持管理に関する講演会の参加費補助、5件 <p><u>維持管理に関する技術支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 藺牟田瀬戸架橋維持管理計画策定業務支援 環境外力評価に関する技術支援，維持管理計画策定に関する技術支援（通年） ● 点検データを用いた橋梁群の劣化予測手法の提案とソフト開発 維持管理計画策定時の劣化予測手法を新たに提案，分析ツールを提供（通年） 知名町，和泊町で活用 ● 診断技術の高度化に関する技術支援 デジタルカメラ法および振動計測による点検診断技術開発 ● 老朽化施設の点検診断および対策等維持管理に関わる技術支援 橋梁（甕大橋、瀧見大橋、大鳴門橋等），雨水路等（通年） ● 道路メンテナンス研究会（肝付町） 橋梁の簡易的かつ低コストの補修工法及び健全度評価手法の確立に向けた連携研究 ● 温泉地域の腐食評価 ● 塩害地域の腐食評価 <p><u>研究開発に関する支援</u></p> <p>研究題目「構造物の診断技術および維持管理システムの開発とその実用化に関する研究（平成29年12月6日締結～平成34年9月30日まで）</p> <p><u>診断技術・材料性能評価に関する支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 材料性能評価 82件 <p>➤ 活動成果</p> <p>鹿児島県内のインフラ構造物の維持管理全般に関与し，県内インフラの長寿命化，持続可能化を目指した活動を継続することができた。</p> <p>また，活動の多くは，県内外の土木技術者・研究者と連携し技術支援等を行うため，維持管理等業務に関わる土木技術者の育成にもつながった。</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		加工計測 IoT 研究会
代表者	氏名	熊澤 典良
	所属	鹿児島大学理工学研究科
設置分野		地域創生・安全工学
会 員 数		計 10名 (学内 3名・学外7名)
<p>➤ 活動実績および活動成果</p> <p>1. カンファレンスでの発表</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) CIEC 2022 PCC, 開催日: 8/11(木)～8/13(土), 発表件数: 1</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 九州 PCC in 大分, 開催日: 11/12(土), 発表件数: 1</p> <p>2. IoT 実証ラボの見学</p> <p style="margin-left: 20px;">1回、2名(R4年8月19日(金) 13:15-14:00)</p> <p>3. 講演</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) IoT 実証プロジェクト ハーベスタ位置情報収集システムの研究に関する報告会, 開催日時: 令和4年10月11日(火)10:00～14:00, 開催場所: 生和糖業ミーティングルーム, 主催: 鹿児島大学イノベーションセンター, 題目: 喜界島情報システムによる概要と実証実験結果, 参加者15名</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 「高精度リアルタイム位置情報の新たな活用方法の研究」報告会, 開催日時: 令和4年10月25日(火)10:00～12:00, 開催場所: 伊仙町役場公民館2階ホール, 主催: 鹿児島大学イノベーションセンター, 題目: 徳之島情報システムによる概要と実証実験結果, 参加者11名.</p> <p>4. 受賞</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 2022PC カンファレンス最優秀論文賞</p> <p style="margin-left: 20px;">池本健太郎(鹿児島大学)、熊澤典良(鹿児島大学)、奈良大作(鹿児島大学)、上谷俊平(鹿児島大学)「AI を用いた学内のコンビニ店における弁当の残数を提供するシステムの開発」</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		鹿児島版地盤情報データベース研究会
代表者	氏名	酒匂 一成
	所属	鹿児島大学学術研究院理工学域工学系
設置分野		地域創生・安全工学
会 員 数		計7名 (学内4名・学外3名)
<p>➤ 活動実績</p> <p>4月:今年度の活動方針に関する打ち合わせを行った。</p> <p>5月:鹿児島県建設技術センター主催の講習会で研究成果に関する講演を行った。</p> <p>6月～10月:ボーリングデータを活用した三次元地盤モデルの精度向上に関する調査を行った。鹿児島市平野部での液状化判定へのデータベース活用について検討した。</p> <p>10月:地質業協会の技術講演会でデータベースに関する講演を行った。</p> <p>11～1月:土の勉強会において、今後のボーリングデータ収集方法について技術者と意見交換を行った。</p> <p>2月:地盤情報データベースを活用した鹿児島市平野部での液状化判定に関する研究成果をまとめた。</p> <p>➤ 活動成果</p> <p>本年度の活動について、「鹿児島版地盤情報データベースシステム(K-DBS)」の工学的利用法の検討として、これまでに収集してきたボーリングデータを基にしたより精度の高い三次元地盤モデルの作製に取り組んだ。また、データベースのボーリングデータや土質試験結果を用いた液状化判定の実現可能性について研究を行い、土質試験データが不足していること、特に結果に影響を与える入力データを明らかにした。</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称	地域特性を活かした資源循環システムによる新しい肥・飼料の開発		
代表者	氏名	山口 明伸	
	所属	理工学域工学系	
設置分野	地域創生・安全工学分野		
会 員 数		計 名 (学内 9名・学外 10名)	
<p>➤ 活動実績</p> <p>理工学系、農学系、水産学系の各WGで下記の活動を実施した。</p> <p>＜農学系＞ ボイル筍、麦焼酎粕廃液、竹笹当の廃棄物のサイレージ化の検討と、その飼料としての有効性の検討</p> <p>＜水産学系＞ 竹パウダーの利活用とビール粕を用いたウニの育成実験、および漁礁材料の開発（理工系連携）</p> <p>＜理工学系＞ 鉄鋼スラグを使った水和固化体開発とそれを活用した漁礁形成の実証試験</p> <p>➤ 活動成果</p> <p>＜農水産学系＞</p> <p>対象残渣物をボイル筍と麦焼酎粕廃液およびビール粕を用いた牛・豚の飼料としてのサイレージ化やビール粕利用の雲丹等の水産物養殖を進め、地域業者や地元行政の協力の下、鹿児島地域の農水産物残渣搬入(入口)と加工飼・肥料普及(出口)を含めた総合的な資源循環システムの一例が構築できる現実的な計画を策定した。</p> <p>＜理工学系＞</p> <p>沿岸域の漁場環境向上を目的に開発している資源循環型漁礁ブロックの実証試験を実施し、未利用資源であるシラスと産業廃棄物である鉄鋼スラグを活用した「シラス入り鉄鋼スラグ水和固化体ブロック」を漁礁用に改良した新たな基質材を開発した。材料・配合、製造方法の検討およびブロックの物理化学的特性の評価を行い、実用性と必要性能を満たしていることを確認した。また、基質材の海洋生物への影響についても魚類および甲殻類を用いた毒性実験も実施し、有意な毒性が認められないことを確認した。</p>			

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		出水麓デザイン研究会
代表者	氏名	木方十根
	所属	工学専攻建築学コース
設置分野		地域創生・安全工学
会 員 数		計 8 名 (学内 1 名・学外 7 名)
<p>➤ 活動実績</p> <p>1) 研究会の開催</p> <p>第4回：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月22日(金) 15:00～16:00 ・公開武家屋敷・三原邸(出水市麓町) <p>第5回：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年9月30日(金) 15:00～15:30 ・諏訪馬場地区公民館 <p>2) 出水麓型集合住宅プロトタイプ開発事業(内容後述)</p> <p>打ち合わせ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年10月6日(木) 12:00～13:00 ・稲盛記念館フードカフェ <p>事例調査：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年11月2日(水) 9:00～13:00 ・ウッドタウン知覧(南九州市知覧) <p>現場打ち合わせ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年12月21日(水) 9:30～13:00 ・2022年2月8日(水) 9:30～13:00 ・二階堂邸他(出水市麓町) <p>➤ 活動成果</p> <p>今年度は通常の研究会に加え、昨年までの研究会で課題として抽出された「出水麓型集合住宅プロトタイプ開発」事業に着手した。本事業の目的は、不動産所有者の了解のもと具体的な敷地を想定した基本計画案(建築基本設計図書)を作成のうえ積算・見積を実施し、事業化への検討材料を示し、麓の伝統的建造物群保存地区の不動産市場を活性化することである。本事業について南九州・南西諸島域イノベーションセンターの異分野融合研究プロジェクト創出研究助成事業の助成を得た。研究会員の不動産業関係者から物件の周旋を得たのち、所有者との協議を行い、建築基本設計を実施した。やや設計が遅れているが、年度内に積算・見積を完了し、新年度における不動産販売サイト等への情報提供を目指している。</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		ライフサイクルハウス研究会
代表者	氏名	鷹野 敦
	所属	鹿児島大学理工学研究科
設置分野		環境・エネルギー
会 員 数		計 8 名 (学内 4 名・学外 4 名)

➤ 活動実績

年度計画に基づき、主に以下の2点に取り組んだ。

1) LCA による環境評価

昨年度の研究成果を整理し、図表にまとめるとともに、結果の分析・考察を行った。6月より論文原稿の執筆を開始した。

2) 仮設トイレのプロトタイプ製作

県の補助金（木とふれあう環境づくり推進事業）を受け、開発中の構法を応用した純木質仮設トイレのプロトタイプ製作を実施した。10-11月に実施設計と見積り調整を行い、12-1月に製作作業を行った。12月22-23日の2日間で、躯体部分の施工を学生が中心となって行った。年明けから、建具、屋根・床仕上げ、設備工事を行い、1月21日に完成した。

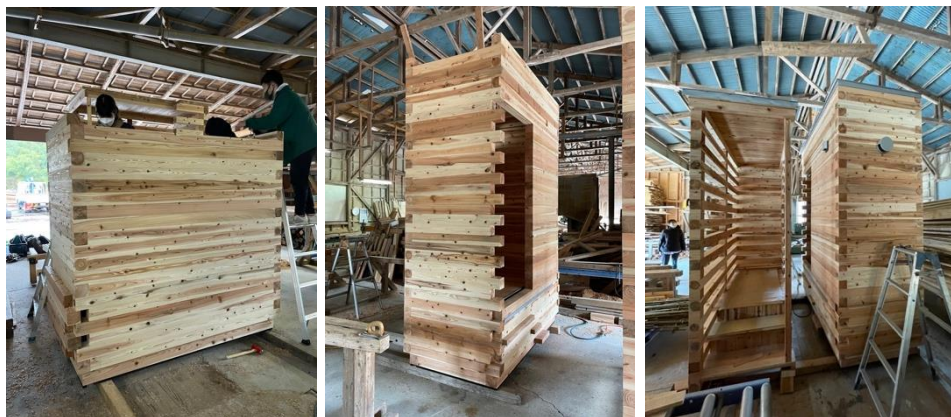
➤ 活動成果

1) LCA による環境評価

継続的に執筆作業を進めているが、他用務との兼ね合いで計画通りには進んでおらず、科学誌への投稿には至っていない。引き続き作業を行い、年度内には投稿を行いたいと考えている。

2) 仮設トイレのプロトタイプ製作

1棟当たり約1.75m³(樹齢60年程度の立木2本分、一般的な在来木造住宅の約5倍(床面積当たり))の木材を用いた、木の香りと温もりに包まれる試作棟が完成した。地域材の利用を促進する仮設トイレのモデルとして、今後、情報発信を行う。建設現場での使用について既に問い合わせが来ており、今回の試作を踏まえ、改善した製品を社会に還元していきたい。



令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		HTS バイオ分子設計研究会
代表者	氏名	伊東祐二
	所属	鹿児島大学大学院理工学研究科理学専攻
設置分野		医療・福祉工学
会 員 数		計 9 名 (学内 2 名・学外 7 名)
<p>➤ 活動実績</p> <p>予定していた HTS バイオ分子設計研究会の開催はできなかったものの、代表者（伊東）が会長として、本研究会と密接に関連する日本抗体学会を設立し、第1会日本抗体学会学術大会を令和4年11月26-27日、鹿児島大学学習交流センターを中心とした4会場を利用して開催した。この学会設立を契機に、HTS バイオ分子設計研究会の会員の増加と、技術の普及が期待される。</p> <p>➤ 活動成果 (論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Narutoshi Tsukahara, Akikazu Murakami, Maiko Motohashi, Hiroshi Nakayama, Yoshiro Kondo, Yuji Ito, Takachika Azuma, Hidehiro Kishimoto. An alpaca single-domain antibody (VHH) phage display library constructed by CDR shuffling provided high-affinity VHHs against desired protein antigens. <i>International Immunology</i>, 34, 421–434 (2022)・・・資料 1 (p1) 2. Norihiko Kiyose, Nobuo Miyazaki, Katsunori Furuhata, Yuji Ito. Sensitive immunoassay of <i>Legionella</i> using multivalent conjugates of engineered VHHs. <i>The Journal of Biochemistry</i>, (2022) https://doi.org/10.1093/jb/mvac102・・・資料 2 (p15) 3. 伊東祐二. 親和性ペプチドを用いた部位特異的修飾による抗体の高機能化技術の進展. <i>実験医学(増刊)“治療の可能性が広がる抗体医薬”</i> 40, 3267-3273 (2022)・・・資料 3 (p56) 4. 伊東祐二 & ラフィーク アブドゥール. 高機能化抗体医薬品の開発に向けた IgG 抗体部位特異的修飾法. <i>別冊・医学のあゆみ</i> 95-101 (2022)・・・資料 4 (p64) <p>(特許) 2件 (招待講演) 3件 (海外学会発表) 2件 (国内学会発表) 16件</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		食品加工開拓研究会
代表者	氏名	二井 晋
	所属	工学部先進工学科 化学工学プログラム
設置分野		先進物質材料開発分野
会 員 数		計 15 名 (学内 8 名・学外 7 名)
<p>➤ 活動実績</p> <p>食品加工開拓研究会 第5回講演会を3月8日(水)10:00～12:00に、鹿児島大学にて対面で開催した。講演者は2名で、参加者は12名、合計14名であり、2件の講演が行われた。「食品製造に向けたファインバブル応用」</p> <p style="padding-left: 40px;">日本獣医生命科学大学 小林 史幸 先生</p> <p style="padding-left: 40px;">「ファインバブルの作り方と機能」</p> <p style="padding-left: 40px;">鹿児島大学 五島 崇 先生</p> <p>➤ 活動成果</p> <p>第5回講演会は、注目を集めているファインバブルの食品製造への応用展開の可能性を探るべく、テーマを「食品のモノづくりへのファインバブル応用」と設定した。</p> <p>小林先生から、加圧二酸化炭素ファインバブルを用いた食品の殺菌・酵素失活に関する話題提供をいただき、CO₂バブルによる殺菌のメカニズム、清酒製造への応用の事例に関して、どのような連携で行われたのか、処理量はいくらか、などの活発な討論が行われた。</p> <p>五島先生よりファインバブルの調製方法(各種発生器)が紹介され、各方式の利点と課題が述べられた。用途や原料に応じて適切に選択することが重要とのことである。食品に応用可能な様々な機能、特に液体中への気体の高濃度で含有する特性が報告された。ファインバブルがなぜ長時間安定して存在するのか、に関して活発な議論が行われた。</p>		

令和4年度 地域コトづくりセンター研究会活動報告書

研究会の名称		鹿児島ハイブリッドロケット研究会
代表者	氏名	片野田 洋
	所属	理工学域工学系
設置分野		天文学宇宙分野
会 員 数		計 名 (学内 32 名・学外 20 名)
<p>➤ 活動実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 鹿児島ロケット 5 号機以降用の 1kN 級エンジンの開発(燃焼試験)を 11 月と 12 月に JAXA 内之浦宇宙空間観測所で実施した. 肝付町からレンタル物品提供などの支援を受けた. 2) 鹿児島ロケット 4 号機の機体開発を行った. 3) 鹿児島ロケット 4 号機打上げ実験の実施運営に関するワーキンググループ会議を行った(現在も進行中). 肝付町との共催で打上げ実験を 3 月に実施予定である. 4) オンラインの研究会を 3 回実施した. <p>➤ 活動成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アクリルとパラフィンワックスを組み合わせた新規燃料, およびパラフィンワックスを主成分とした新規燃料を用いてエンジンの燃焼試験を行った. 推力特性の基礎データを得ることができた. 2) 鹿児島ロケット 4 号機の機体開発の一環として, 機体上段のパラシュート格納部を大型水ロケットで打ち上げる動作確認試験を 12 月に吉野公園で行った. 上空でパラシュートは開傘し, 4 号機用の改良が妥当であることを確認した. 3) 鹿児島ロケット 4 号機のプライムパートナー企業を 3 社獲得した. 4) 鹿児島ロケット開発に関する本年度の報道は, 1 月 13 日現在で 7 件である. 		

2.3 産学連携事業

1) 企業との共同研究講座

「CRS 資源循環システム共同研究講座」

本共同研究講座の目的は、地元の牛・豚・鶏の糞尿等の畜産系廃棄物、焼酎粕や野菜類等の植物系廃棄物、養殖魚や雲丹殻等の水産系廃棄物を資源循環させる仕組みを構築するシステムの構築にある。これらの乾燥粉末化やサイレージ化等により廃棄物を飼・肥料に加工する際の、コスト削減、栄養成分や安全性、さらに目的に応じた効率的な原料選定手法や加工手法などの開発を進めている。

以下に、本共同研究講座の概要と主な活動状況を示す。

< CRS 資源循環共同研究講座の概要 >

研究課題：地域特性を活かした資源循環システムの開発 — 新しい循環型飼料・肥料の開発 —

研究実施場所：大学院理工学研究科地域コトづくりセンター、CRS 株式会社入来研究所（入来町）

設置期間：令和2年4月1日から令和5年3月31日

研究担当者：

【理工学研究科】山口明伸（研究代表者）、審良善和、甲斐敬美、高梨啓和、中島常憲、
本間俊雄（令和4年4～9月）、近藤英二（令和4年10月～令和5年3月）

【農学部】樗木直也、紙谷喜則、石橋松二郎、大塚彰、侯徳興、鶴丸博人、橋本文雄

【水産学部】江幡恵吾、遠藤光、石川学、國師恵美子、佐久間美明

【CRS 株式会社】内村正広（代表者）、桐野正人、坂井保之、野上琇次、武佳司、内村洋貴

< 主な活動状況 >

(1) 定期運営委員会（進捗状況報告と確認、及び今後の方針決定）

メンバー：山口理工学研究科長、橋本農学部長、佐久間水産学部長、本間特任教授
研究科・工学系総務係長、研究科・工学系会計係長
内村 CRS 環境事業部本部長、桐野 CRS 入来研究所主任研究員

令和4年5月25日：第4回定期運営委員会

令和4年9月27日：第5回定期運営委員会

(2) 定期ミーティング（CRS と鹿大との意思疎通等確認）

メンバー：桐野、坂井、ほか必要に応じて CRS 社員と CRS 共同研究講座の教員
（9月末まで本間特任教授、10月から近藤特任教授）

4/4、11、18、25、5/9、11、16、6/1、7、16、22、28、7/4、12、26、8/2、5、17、23、29、9/12、
15、10/24、31、11/15、21、28、12/5、20、1/16、23、30、2/6、13、20

(3) 担当者と（CRS＋共同研究講座）とのミーティング

令和4年5月30日月曜日 農産物残渣の地産地消について

メンバー：九州経済産業局資源エネルギー環境部、鹿児島県商工労働水産部産業立地課、鹿大
南九州・南西諸島域イノベーションセンター、鹿大 CRS 共同研究講座

令和4年8月23日火曜日 栄電社との情報交換

メンバー：CRS（桐野・坂井・武）、鹿大（瀬戸口・本間）、栄電社（川口・坂井）

令和4年9月15日木曜日 農産物残渣を用いたエコフィードについて

メンバー：CRS（桐野、武、坂井）、鹿大（農学部：豊教授、本間）

令和4年11月1日火曜日 鉄鋼スラグ漁礁の実証試験について

水産学部：江幡准教授、理工学研究科：審良准教授、近藤

令和4年12月5日月曜日 鉄鋼スラグ漁礁の実証試験について

CRS（桐野、坂井）、鹿大（水産学部：江幡准教授、理工学研究科：審良准教授、近藤特任教授）

(4) その他

b. 鉄鋼スラグ漁礁の最適な条件についての評価試験を谷山港と水産学部の東町ステーションで行っている。また、その結果に基づき、令和5年度以降も鉄鋼スラグ漁礁の開発を継続し、2年間程度で実証試験を行う予定である。

a. 現在 CRS 入来研究所に設置されているボイル筍皮のサイレージ化システムでは製造コストが高いため、CRS 共同研究講座が地域コトづくりセンター、技術部と協力し、製造コスト低減を目的として筍皮圧縮切断装置の研究開発を提案した。これまでにテスト機での評価を終え、3月末を目途に試作機的设计製作を進めている。令和5年度以降は実証機的设计製作を行う予定である。

2) SDGs 推進プロジェクト

「地域ビッグデータを活用した、水産・海洋産業のスマート化と島嶼部での再エネ高効率利用に関する研究（海×島 SDGs 推進プロジェクト）」

事業名：地域ビッグデータを活用した、水産・海洋産業のスマート化と島嶼部での再エネ高効率利用に関する研究（海×島 SDGs 推進プロジェクト）

実施場所：鹿児島大学および鹿児島県内の事業対象区域

学内研究者：理工学研究科、工学部、水産学部、法文学部

事業概要：本事業は鹿児島大学のSDGsの取り組みの一環として実施するもので、本大学の強みである「統合知」と「鹿児島地域版ビッグデータ」を活用することにより、【A】鹿児島県の水産・海洋産業の事業強化と新規事業の創出を目標にして、これらの産業のスマート化を推進するシステムの開発や、【B】鹿児島県島嶼部における農林水産業の高度化を促進するための、地域資源としての再生可能エネルギーを最大限利用するシステムの開発、【C】SDGsで言及されている海洋プラスチックごみの合理的な処理・処分の実現に向けて、鹿児島県海岸におけるプラごみ監視システムの開発等を推進する。

以下に、R4年度の主な活動状況を示す。

ミッション実現戦略分関連

R4年5月9日

国際島嶼教育研究センターと合同提案した、ミッション実現戦略分事業「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」に対して予算配分の決定

R4年6月23日

ミッション実現分運営委員会開催

R5年1月19日

次年度に向けての海×島SDGs推進プロジェクト研究打合せ

R5年2月19日

全学プロジェクト・ミッション実現戦略分「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」のキックオフシンポジウム「奄美大島における『生物文化多様性』と『地方創生』」開催

会場：奄美大島・奄美市市民交流センター

主催：国際島嶼教育研究センター、大学院理工学研究科地域コトづくりセンター、後援：奄美市

参加者：111名（遠隔60名込み）

関連発表件数：4件

関連記事：R5年2月20日／南海日日新聞、R5年2月28日／鹿児島大学HP掲載

研究打合せ・現地調査関連

R4年9月9日、11月25日

養殖マグロ生産量増大に向けた奄美大島久慈湾・篠川湾での現地観測

R4年4月～R5年3月

黒潮流域および北部薩南海域における流れ藻観測

R4年8月22日

流れ藻来遊予測技術開発に向けた会議（西之表市役所、種子島漁業協同組合）

R4年10月14日、R5年2月9日

流れ藻来遊予測技術開発に向けた会議（東町漁業協同組合）

R4年12月19日、R5年2月20日

流れ藻来遊予測技術開発に向けた会議（南種子町漁業協同組合）

R5年2月17日

流れ藻来遊予測技術開発に向けた会議（モジャコ生産者協議会）

R4年8月23日

与論島の海岸モニタリングに向けた打ち合わせ（鹿児島大学、与論町町役場、与論町教育委員会、海謝美ボランティアグループ）

R4年11月28-30日

与論島の海岸モニタリングに向けた現地調査（鹿児島大学、与論町町役場、教育委員会、海謝美ボランティアグループ）

R4年7月8-9日

志布志湾底曳網漁船によるスマートCTD観測に関する調査

R4年8月9-10日

種子島沿岸の漁場予測システム開発に関する現地調査

R4年8月26-28日、12月6-7日

志布志湾における漁場予測システム開発に関する現地調査

R4年12月8-10日

与論島周辺海域における漁場予測システム開発に関する現地調査

R4年8月2-3日

電動モビリティ導入に関する事業者との打ち合わせ

R4年11月22-23日

大隅半島における再エネ導入調査

R4年12月25-26日

岡山県真庭市へのバイオマス発電を利用したまちづくり調査

R5年1月10-11日

宝島における再エネ調査における事業者との打ち合わせ

そのほか

R4年11月

AIを用いた海岸漂着プラスチックごみのモニタリング手法を開発、鹿大ジャーナルNO. 221(2022AUTUMN)に掲載

R4年9月30日

スマート沿岸漁業ネットワーク（SF_iN）との研究連携協力に関する覚書の締結

（漁業者参加型の現場観測に関する技術開発、海況予測の精度向上と効果的な情報提供システムの構築、および沿岸漁業のスマート化推進のための連携と協力）

R5年2月1日

モジャコ漁場予測技術（流れ藻マップ）、鹿大水産学部ホームページに公開

R5年2月27日

プレスリリース「モジャコ漁場探索を効率化するための流れ藻マップを開発、社会実装化試験を開始」、関連記事：R5年2月27日/鹿児島大学HP掲載、R5年3月2日/R5年3月2日/NHK 県内ニュース放送

3) 地方自治体との包括連携協定

平成 29 年 1 月 27 日に締結した理工学研究科と肝付町の包括連携協定に基づいた活動を以下にまとめるとめる。

第 1 回協議
<p>【実施日】 令和 4 年 6 月 8 日（水）10：30-12：00</p> <p>【場 所】 地域コトづくりセンター</p> <p>【出席者】 <肝付町> 教育長 上久保 秀樹 教育委員会 主査 飯田 徳弘 肝付町企画調整課 参事兼係長 西村 智和 課長補佐 田畑 哲也 <鹿児島大学>センター長 二宮 秀與 特任専門員 橘 まき</p> <p>【概要】 連携事案として取り組んでいた課題の進捗の確認及び令和 4 年度の活動打合せ。</p> <p>課題の進捗</p> <p>従来の課題「地域拠点整備」「地域公共交通」「宇宙・ロケット」については、昨年来と同様に実施を続けている。「エネルギー活用」については、法文の市川英孝先生にもご協力いただき「肝付町脱炭素戦略ビジョン」を作成することができた。</p> <p>R4 年度の活動打合せ：教育委員会</p> <p>令和 4 年度の活動については、肝付町は日本宇宙少年団（YAC）に参加しており、毎年、内之浦での活動を行っている。参加小学生は 40 名程度で、半数が新規、半数が昨年度以降引き続き参加する児童である。YAC 活動では、毎月 1 回（年 12 回）、宇宙に関する活動を行っているが、毎年同じような内容であるため、次年度以降、新しい視点で新しい企画を検討したい。</p> <p>企画課</p> <p>事前に各課に課題をヒアリングし、鹿大との連携可能性のある課題は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者のゴミ出し困難（住民課）・地魚のブランド化（林務水産課）・「SGEC 森林認証」（林務水産課）・有害鳥獣駆除（農業振興課）・広報誌作成へのアドバイス
【センターの取組】
<p>上記課題の共有を受け、以下の通り対応を行った。</p> <p>【ロケット研究会】 広報・勉強会等の実施支援</p> <p>【プログラミング講座】 内之浦小学校でのプログラミング教室の調整を行った。 (日程があわず実施には至らず)</p> <p>【 Y A C 活 動 】 教員の調整・紹介</p> <p>【 S G E C 森 林 認 証 】 教員の調整・紹介</p> <p>【 有 害 鳥 獣 駆 除 】 教員の調整・紹介</p>

2.4 教育・開発部門

1) 中央実験工場活動報告

大学院理工学研究科 地域コトづくりセンター 中央実験工場（以下工場と省略）は、4名の技術部職員で運営を担当しており、機械工作実習の指導補助や卒論・修論に携わる学生への技術相談対応などの教育支援業務及び実験装置部品や試験片等の受託加工などの技術支援業務、この2つを大きな柱とした学内向けの支援業務を主に行っている。

運営担当技術職員それぞれの専門性を活かし、理工学研究科だけではなく学内全域、さらには地域活性化のための共同研究等の技術支援にも対応し、大学におけるものづくりの拠点としての認知度も高く、広く活用されている。

教育部門

① 利用申請（学生は研究室単位、技術職員は個人での受付）

受付件数：66件 登録者数 184名（2/28時点）

② 安全講習

設備等利用に際して必要となる安全講習を新規利用希望者対象に行っている。本年度の受講者数は以下のとおり。

受講者数：116名（2/28時点）

③ 実習等の指導

1. 先進工学科機械工学 PG「機械工作実習 A&B」 前・後期 各 15回 受講者数：82名
2. 教育学部講義「技術概論」工場見学 4/27（水） 2限目 受講者：8名
3. 海洋土木工学科「海洋土木デザイン工学」工場実習
5/9（月）、5/16（月）、5/30（月）、6/6（月） 全4回 受講者数：53名
4. 理学部理学科物理・宇宙 PG「物理計測実験」工場実習
6/17（金）、6/24（金）、7/1（金）、7/8（金） 全4回 受講者数：41名

④ 施設利用関係

1. 先進工学科機械工学 PG「創造機械設計」 期間：5/18～7/27 1～3限目
2. 理工技術部 公開講座「ものづくり体験教室 2022」 8/10（水）
3. 令和4年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修 A の施設見学 11/11（金）
4. 建築学科「建築設計Ⅳ 構法スタジオ」 期間：11/30～1/19 水・木曜 3～5限目
5. CRS 共同研究講座 試作機の組立と調整 期間：3/1～3/31

開発部門

作業依頼実績（2/28時点）

受託件数：149件

（工学系 136件、理学系 5件、医歯学系 4件、共同獣医学部 1件、農学部 1件、先端科学研究推進センター 2件）

完了件数*：155件 *令和3年度からの持越を含む

（工学系 134件、理学系 5件、医歯学系 4件、共同獣医学部 1件、農学部 1件、先端科学研究推進センター 2件）

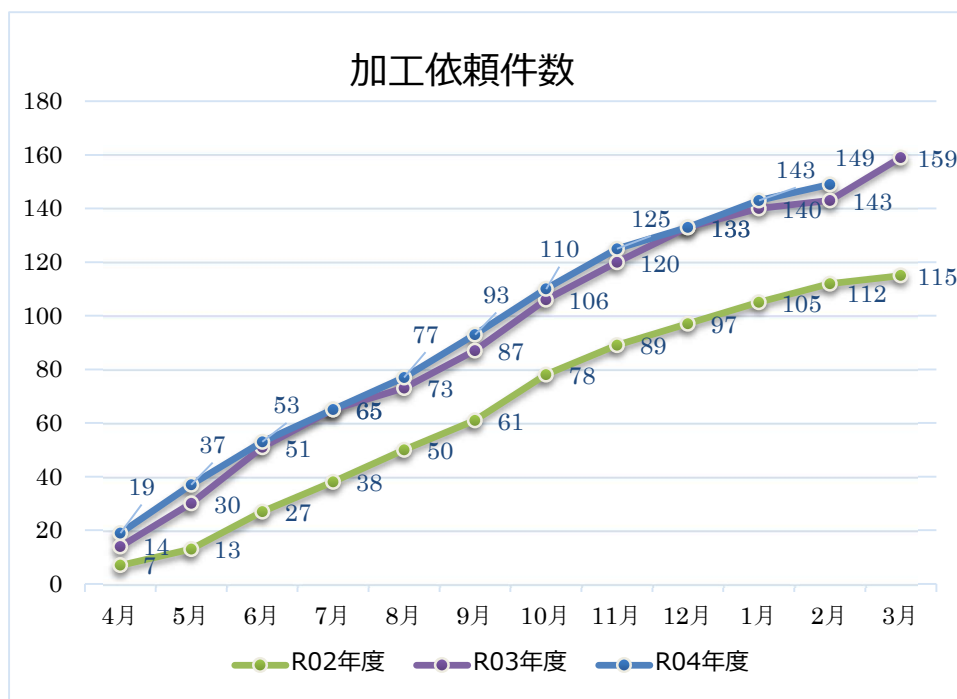


図 加工依頼月毎推移

2.5 研究インターンシップ

1) 派遣実績

学 年	専 攻	派遣先企業	期 間
M1	海洋土木工学	国立研究開発法人 港湾空 港技術研究所	R4. 7/11～9/16
M1	海洋土木工学	国立研究開発法人土 木研究所	R4. 7/19～9/30
M1	海洋土木工学	株式会社ピーエス三菱 技術研究所	R4. 8/8～10/7
M1	物理宇宙	一般社団法人 日本健康医 学士協会	R4. 11/1～12/1
M1	情報・生体工学	株式会社 リコー	R5. 1/10～3/31

2) 企業説明会、相談会、報告会

○ 第1回研究インターンシップ実施報告会・説明会の開催

令和2年度の研究インターンシップ参加者による実施報告会と、一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）の事業説明会を開催。

【開催日時】 令和4年4月28日(木)

【場 所】 オンライン（Zoom）

【参 加 者】 9名（工学部6名、理学部3名）

【次 第】

時 間	プログラム	発表者
10分	「研究インターンシップ(1・2) について」説明	地域コトづくりセンター 特任専門員 橘
10分	C-ENGINE 事業紹介業より企業紹介	C-ENGINE 事業責任者 藤森
15分	令和2年度 研究インターンシップ 参加学生による実施報告	理学/化学プログラム M2

○ 第2回研究インターンシップ実施報告会・説明会の開催

令和3年度の研究インターンシップ参加者による実施報告会と、一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会（C-ENGINE）の事業説明会を開催。

【開催日時】 令和5年2月13日(月)

【場 所】 オンライン（Zoom）

【参加者】26名（工学部10名、理学部13名、不明3名）

【次第】

時間	プログラム	発表者
10分	C-ENGINE 事業紹介業より企業紹介	C-ENGINE 事業責任者 藤森
10分	「研究インターンシップ(1・2)について」説明	地域コトづくりセンター 特任専門員 橘
15分	令和3年度 研究インターンシップ参加学生による実施報告	理学/物理・宇宙プログラム M1

3) 協力企業

C-ENGINE 参加企業・共同研究先企業・鹿児島県内企業等、研究インターンシップ受入先を開拓。受入可能との回答を得た企業については manaba 上で企業概要を紹介した。

【地元企業】(5社)

企業名	所在地
アサダメッシュ 株式会社	鹿児島県薩摩川内市祁答院町黒木 6165 番地
株式会社 栄電社	鹿児島市下荒田一丁目 36 番 24 号
株式会社 True Balance	鹿児島県鹿児島市中山町 5157
株式会社 エルム	鹿児島県南さつま市加世田宮原 2398 番地
宝来メディック 株式会社	鹿児島県鹿児島市御本町 5-29

4) ジョブ型インターンシップ

令和3年度より文部科学省より先行的・試行的な実施が始まったジョブ型研究インターンシップについて、連合農学研究科とともに鹿児島大学として「ジョブ型研究インターンシップ推進協議会」に入会。博士後期課程学生を対象とし、有給のインターンシップであるという2点がC-ENGINEの研究インターンシップと大きく違う点であり、学生の選択肢の一つとして、コトづくりセンターが事業窓口として情報発信・実施支援等を行っている。

周知活動		
令和4年	5月2日(月)	学生向け説明会
	6月1日(水)	学生向け説明会
	7月1日(金)	学生向け説明会
	8月1日(月)	学生向け説明会

	9月1日(木)	学生向け説明会
	10月3日(月)	学生向け説明会
	10月19日(水)	「インターンシップ求人探し」から考える博士課程の過ごし方セミナー
	11月1日(火)	学生向け説明会
	11月15日(火)	博士後期課程学生のための蔵前就職情報交換の集い
	11月28日(月)	博士学生向け体験型セミナー
	12月1日(木)	学生向け説明会
	12月2日(金)	企業・学生自由参加型交流企画「オープンドア」
令和5年	1月10日(火)	学生向け説明会
	2月1日(水)	学生向け説明会

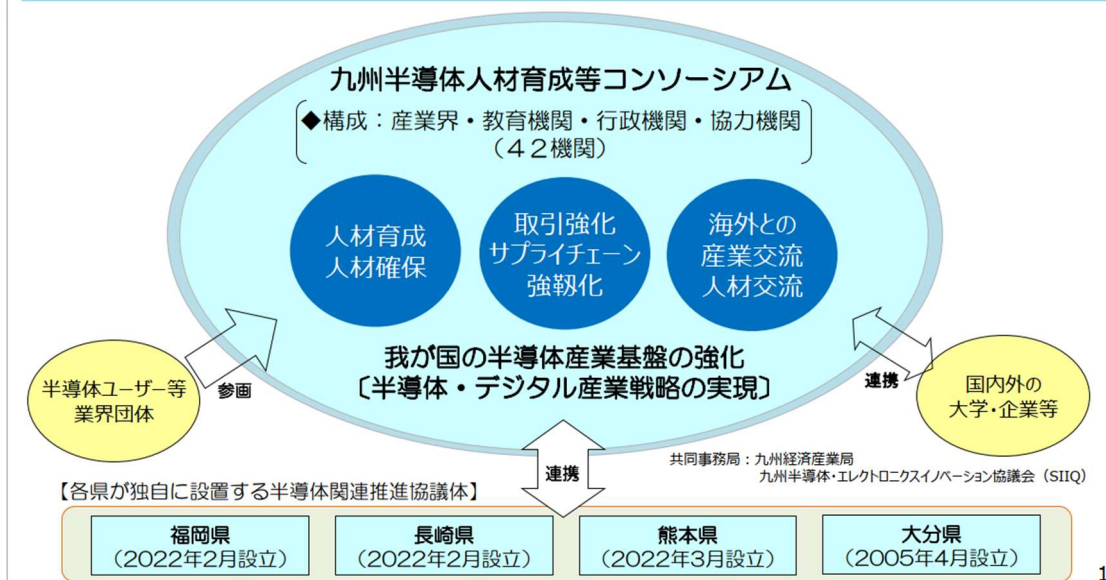
5) 九州半導体人材育成等コンソーシアム

令和4年3月29日、産業界、教育機関、行政機関等（42機関）で構成される九州半導体人材育成等コンソーシアムが設立。鹿児島県からは鹿児島大学と鹿児島県が参画し、地域コトづくりセンターが大学窓口として各種業務を行った。

【概要】

◆シリコンアイランド九州の復活に向けて

- ▶ 国や自治体、産業界、大学・高専等で構成する「九州半導体人材育成等コンソーシアム」を組成し、半導体人材の育成・確保やサプライチェーンの強靱化を図り、半導体産業の復活に向けた取組を九州から強力に推進していく。



【構成メンバー】

参画機関一覧（全42機関） ※五十音順

2022年3月29日時点

	参画機関名
産業界	株式会社オジックテクノロジーズ
	櫻井精技株式会社
	株式会社ジャパンセミコンダクター
	株式会社スズキ
	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
	株式会社デンソー
	東京エレクトロン九州株式会社
	株式会社ピーエムティー
	株式会社マイステア
	三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所
	株式会社安川電機
	ラピスセミコンダクタ株式会社 宮崎工場
	ルネサスエレクトロニクス株式会社
	株式会社ワールドインテック
Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社	
株式会社SUMCO	
教育機関	国立大学法人鹿児島大学
	国立大学法人九州工業大学
	国立大学法人九州大学
	熊本県立技術短期大学校
	国立大学法人熊本大学
	独立行政法人国立高等専門学校機構
	学校法人福岡大学 半導体実装研究所
	国立大学法人宮崎大学
行政機関	福岡県
	佐賀県
	長崎県
	熊本県
	大分県
	宮崎県
	鹿児島県
	福岡市
	北九州市
	文部科学省
経済産業省	
協力機関	大分県LSIクラスター形成推進会議
	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
	一般社団法人九州経済連合会
	国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター
	独立行政法人中小企業基盤整備機構 九州本部
	一般社団法人電子情報技術産業協会
独立行政法人日本貿易振興機構 福岡貿易情報センター	
事務局	九州経済産業局
	九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会

5) コーディネーター 活動報告

各種インターンシップ推進のための活動を以下に示す。

ジョブ型インターンシップ		
【日時】 令和4年	6月7日(火)	第4回運営委員会（書面審議）
	10月4日(火)	第5回運営委員会（書面審議）
	12月6日(火)	第6回運営委員会（書面審議）
令和5年	2月7日(火)	第7回運営委員会（書面審議）
	3月7日(火)	教員向け共通説明会

九州半導体人材育成等コンソーシアム		
【日時】	令和4年 5月19日(木)	第1回会合
	令和5年 3月30日(木)	第2回会合
一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会		
【日時】	令和4年 5月18日(水)	通常社員総会
	令和5年 1月19日(木)	シンポジウム/役員意見交換会
	3月2日(木)	コーディネーター会議
産学・共創センター		
【日時】	令和4年 5月11日(水)	県内コーディネーター会議
	令和5年 3月1日(水)	県内コーディネーター会議
科学技術振興機構 目利き人材育成プログラム		
【日時】	令和4年 11月24日(木)	技術移転に係わる 目利き人材育成プログラム「トピックス コース（産学官連携リスクマネジメント）」

3 会議報告

1) 運営会議

当会議は地域コトづくりセンターの事業の企画・立案及び部門の連絡・調整、研究会の設立審議等を審議・決定できる組織で、センターにおける最高決議機関となっている。令和4年度の実施状況を以下に示す。

令和4年度第1回運営会議

開催日	令和3年8月3日(水) 17:15-18:00 Web会議
出席者	【事務局】 センター長 二宮 秀與、副センター長 伊東 祐二、特任専門員 橘 まき 【研究部門】 教育部門 部門長 熊澤 典良、副部門長 奈良 大作(兼務) 開発部門 部門長 上谷 俊平、副部門長 奈良 大作(兼務) 研究部門 部門長 片野田 洋、副部門長 二井 晋 【各分野 分野長】 地域創生・安全工学分野長 酒匂 一成 環境・エネルギー分野長 鷹野 敦 医療・福祉工学分野長 伊東 祐二(兼務) 先進物資材料開発分野長 二井 晋(兼務) 天文宇宙分野長 片野田 洋(兼務) 【オブザーバー】 研究科長 山口 明伸 技術部 総括技術長 中村 喜寛 事務部長 今辻 幸二 総務係 係長 堀之内 信介 会計係 係長 首高 英司 コトづくりセンター 事務補佐員 白瀬 琴美
次第	1. 令和3年度決算報告 2. 令和4年度予算案 3. 令和4年度活動計画
議事内容	1. 事務局および工場から説明がされ、承認された。 教育部門・開発部門より決算報告がされ、承認された。 2. 事務局より、令和4年度の活動について、本年度は11月下旬を目途に、海×島SDGs推進プロジェクトを中心にテーマを検討し、奄美大島と大学とを繋いだハイブリッド方式でシンポジウムを実施する旨を報告。予算案については、研究会への予算配分は1研究会につき10万円とする、九州半導体人材育成コンソーシアム支援費を設置し10万円を予算措置する旨説明され、承認された。 3. 教育部門・開発部門より、令和4年度の活動について昨年と同様に活動を継続すること、予算案についても昨年と同様に措置することが説明され、承認された。

令和4年度第2回運営会議

開催日	令和5年3月7日(9:00-10:00) web会議
出席者	<p>【事務局】 センター長 二宮 秀與、副センター長 伊東 祐二、特任専門員 橘 まき</p> <p>【研究部門】 教育部門 部門長 熊澤 典良、副部門長 奈良 大作 開発部門 部門長 上谷 俊平、副部門長 奈良 大作 研究部門 部門長 片野田 洋、副部門長 二井 晋</p> <p>【各分野 分野長】 地域創生・安全工学分野長 酒匂 一成 環境・エネルギー分野長 鷹野 敦(欠席) 医療・福祉工学分野長 伊東 祐二(兼務) 先進物資材料開発分野長 二井 晋(兼務) 天 文 宇 宙 分 野 長 片野田 洋(兼務)</p> <p>【オブザーバー】 研 究 科 長 山口 明伸 技術部 総括技術長 中村 喜 事 務 部 長 今辻 幸二(欠席) 総 務 係 係 長 堀之内 信介 会 計 係 係 長 首高 英司 コトづくりセンター 事務補佐員 白瀬 琴美</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度活動報告 2. 新研究会の設立 3. 中央実験工場設備利用に関する申合せの一部改正 4. 令和4年度事業実施報告書について 5. 令和5年度の活動計画 6. 令和4年度予算報告 7. 令和5年度の事務局の体制について
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料にそって各分野長より令和4年度の活動の報告があった。 2. 申請者の木方教授が欠席のため、センター長から新研究会の設立について説明があり、承認された。 3. 上谷教授、技術部奈良班長より申合せの一部改正について説明があり、承認された。 4. 事務局橘より、これまでは事業実施報告書を冊子にしていたが、今年度よりホームページ上に公開することのみにしたい旨、説明があり承認された。 5. 事務局・研究部門から橘、教育・開発部門から奈良班長より、資料に沿って予算執行状況の報告があった。 6. 令和5年度の事務局の体制について、上谷教授が新センター長に就任する旨、報告があった。 7. 令和5年度の事務局の体制について、上谷教授が新センター長に就任する旨、報告。

2) 研究部門会議

当会議は、研究部門における支援成果確認等の活動を主目的とする組織である。会議メンバーはセンター長、副センター長、研究部門5分野長とセンター事務局のスタッフである。令和4年度は、南九州・南西諸島域イノベーションセンターと連携を図るため、南九州・南西諸島域イノベーションセンターからも出席をいただいた。開催日時と主な議題を以下に示す。

○令和4年8月3日(水)16:00-17:15 Web 会議

- ・南九州・南西諸島域イノベーションセンターより情報提供
- ・令和3年度研究会会計報告及び令和4年度活動計画について
- ・令和4年度活動計画及び研究会予算配分案について
- ・令和4年度活動計画
- ・シンポジウムの開催について

○令和5年2月24日(金)10:00-11:00

- ・令和4年度の研究会の活動報告
- ・新規設立研究会「鹿児島地域づくりビジョン」について
- ・活動状況・予算執行状況報告
- ・定例分野長会議の再開について
- ・来年度のシンポジウムのテーマの検討

3) 事務局定例会議

日時	議事
令和4年 4月15日(金)10:30-11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究部門会議、運営会議日程調整 ・研究インターンシップ担当教員への説明会実施 ・各部門長、副部門長への令和4年度の確認 ・年間活動計画説明 ・研究インターンシップ IDM 登録時の指導教員登録 ・鹿児島ロケット3号機報告会の準備受付実施 ・鹿児島県警からの道路標識についての相談 ・IDM 登録の進捗 ・研究インターンシップ web 報告会&説明会実施予定
6月13日(月)10:30-11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「国立大学フェスタ2022」への参加登録 ・肝付町・鹿児島大学包括連携協定会議 ・研究インターンシップの先生方への周知とご協力について検討 ・九州半導体人材育成コンソーシアム参加について ・研究インターンシップ IDM 進捗 ・令和3年度事業実施報告書配布完了 ・令和4年度リーフレット作成
7月19日(火)13:00-14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「海と島のSDGs」開催準備 ・第2回研究部門会議、運営会議の日程調整 ・鹿児島県DX支援プラットフォーム事業での事業説明
10月14日(金)10:30-11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度シンポジウム開催日の決定 ・研究インターンシップの進捗 ・九州半導体人材育成コンソーシアム参加調整 ・ジョブ型インターンシップの登録人数 ・中央実験室へのIOTラボのネームプレート設置
12月12日(月)10:30-11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度地域コトづくりセンターシンポジウム(奄美)ハイブリッド開催の進捗報告 ・五分野長会議を再開 ・第2回研究部門会議、運営会議日程調整 ・事業実施報告書の冊子を廃止PRチラシ作成 ・ニュースレターの作成内容
令和5年 1月17日(火)10:30-11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度地域コトづくりセンターシンポジウム(奄美)ポスター作成完了報告 ・第2回研究部門会議、運営会議日程調整 ・事業実施報告書の目次作成

1月31日(火)13:30-14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度地域コトづくりセンターシンポジウム（奄美）広報活動進捗報告 ・第2回研究部門会議の内容検討 ・第2回運営会議日程決定 ・事業実施報告書の作成内容確認 ・ニュースレターの作成内容確認
2月17日(金)10:00-11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美シンポジウムについて ・第2回研究部門会議の開催について ・第2回運営会議の開催について ・事業実施報告書の作成について ・研究インターンシップ実施報告会&説明会の開催報告
3月6日(月)13:00-14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営会議の確認 ・来年度の体制について

4) 教育・開発部門会議

当該会議は教育実習及び加工依頼等の過月の実績状況報告と当月の予定確認、また、地域コトづくりセンター中央実験工場（以下工場と省略）の運営を円滑に行うための情報共有を行うことを主目的としている。会議のメンバーはセンター長、教育部門長、開発部門長、センター技術職員4名とセンター事務局職員のスタッフ1名である。令和4年度の開催日時と会議内容を以下に示す。

- 令和4年4月7日（木）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・工場実習授業について、加工依頼について、安全講習・利用申請書について（毎月の報告なので以降省略）
 - ・工場設備利用状況について（1月～3月）
 - ・令和3年度教育部門まとめ
 - ・工場利用説明会について
- 令和4年5月9日（月）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・工場の施設利用申請について
- 令和4年6月1日（水）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・工場運営予算・工場利用料について
- 令和4年7月7日（月）10：30～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・工場設備利用状況について（4月～6月）
- 令和4年8月5日（金）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・第1四半期受託作業について
 - ・技術部イベントにおける工場利用について
- 令和4年9月1日（木）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・技術部イベントにおける工場利用について
 - ・IOT実証ラボの表彰について
- 令和4年10月7日（金）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・工場設備利用状況について（7月～9月）
 - ・工場施設見学について（スキルアップ研修A）
 - ・IOT実証ラボについて
- 令和4年11月4日（金）9：00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
 - ・第2四半期受託作業について
 - ・工場利用申請書の保険加入確認について
 - ・施設利用申請について
 - ・工場施設見学について（スキルアップ研修A）

- 令和4年12月6日(火)9:00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
- ・オンデマンド授業について
 - ・工場施設見学について(スキルアップ研修A)
 - ・利用申請書等の変更について
- 令和5年1月11日(水)9:00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
- ・工場設備利用状況について(10月～12月)
 - ・工場の施設利用申請について
 - ・利用申請書等の変更について
- 令和5年2月3日(金)9:00～ 参加者 センター長、部門長2名、技術職員4名、事務局員
- ・実習説明会について
 - ・第3四半期受託作業について
 - ・工場の施設利用申請について
 - ・利用申請書等の変更について
 - ・装置組み立てのための工場スペースの提供願いについて

鹿児島大学大学院理工学研究科地域コトづくりセンター組織規則

平成 27 年 2 月 18 日

理工研規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学学則(平成 16 年規則第 86 号)第 8 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学大学院理工学研究科地域コトづくりセンター（以下「センター」という。）の組織に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、理工学研究科が特色・強みとする分野等において、地域、特に南九州地区の企業・自治体等の活性化や雇用の創出に係る諸課題の解決につながる研究・活動等の支援、自然科学を深く理解し、イノベーションの創出に貢献できる研究開発技術者の育成等の支援を目的とする。

(業務)

第 3 条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。

- (1) センターが主体として行う地域に関連した競争的資金による研究・プロジェクトの採択を目指した準備研究の支援及び研究・プロジェクト実施のマネジメント
- (2) センターが主催する研究会及びプロジェクトの支援
- (3) 博士後期課程の学生の地域共同研究への参画の支援
- (4) センターが主体として行う地域に関連した研究・プロジェクト、博士後期課程の学生が参画する地域共同研究等に伴う関係機関との情報交換及び調整
- (5) センター設置の設備等を用いた実験装置、試作品等の設計・製作の支援
- (6) センター設置の設備等を用いた授業、研修、公開講座等の実施の支援
- (7) 研究インターンシップマッチング業務
- (8) その他センターの目的を達成するために必要なこと

(部門及び分野)

第 4 条 第 2 条の目的を達成するため、センターに次の部門及び分野を置く。

- (1) 研究部門
 - ア 環境・エネルギー分野
 - イ 医療・福祉工学分野
 - ウ 地域創生・安全工学分野
 - エ 先進物質材料開発分野
 - オ 天文学宇宙分野
 - カ その他、センター長が認めた研究分野
- (2) 開発部門
- (3) 教育部門

(組織)

第5条 センターに次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 副部門長
- (5) 分野長
- (6) 特任教員
- (7) その他必要な職員

2 前項第3号から第7号に掲げる職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(センター長)

第6条 センター長は、理工学研究科長が指名する副研究科長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第7条 副センター長は、理工学研究科長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長は、センター長を補佐する。

3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員を生じた場合の補欠の副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長及び副部門長)

第8条 第4条第1項各号に掲げる部門に部門長及び副部門長を置き、センター長が指名する者をもって充てる。

2 部門長は、部門の業務を掌理し、センター長を補佐する。

3 副部門長は、部門の業務について部門長を補佐する。

4 部門長及び副部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長及び副部門長に欠員を生じた場合の補欠の部門長及び副部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(分野長)

第9条 第4条第1項第1号に掲げる各分野に分野長を置き、センター長が指名する者をもって充てる。

2 分野長は、分野の業務を掌理し、センター長を補佐する。

3 分野長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、分野長に欠員を生じた場合の補欠の分野長の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営会議)

第 10 条 センター事業の企画・立案並びに部門間及び分野間の連絡・調整を図るため、運営会議を置く。

2 運営会議は、センター長、副センター長、部門長、副部門長、分野長及びセンター長が必要と認めた者をもって組織する。

3 運営会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

(事務)

第 11 条 センターに関する事務は、理工学研究科等研究科・工学系総務課において処理する。

(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後、最初の副センター長の任期は、第 7 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 29 年 3 月 31 日までとする。

附 則

1 この規則は、平成 28 年 9 月 9 日から施行する。

2 この規則の施行後、最初の分野長の任期は、第 9 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 29 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この規則は、令和 3 年 4 月 14 日から施行し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

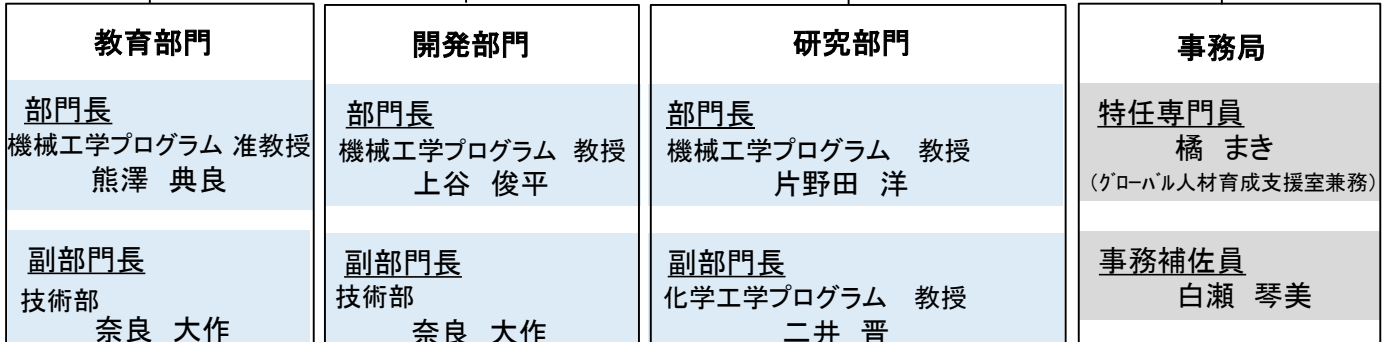
この規則は、令和 3 年 5 月 19 日から施行し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

令和4年度地域コトづくりセンター組織図

鹿児島大学大学院 理工学研究科

地域コトづくりセンター
センター長 二宮 秀與
副センター長 伊東 祐二

運営会議



オブザーバー
技術部 技術長
中村 喜寛

センター技術職員

奈良 大作
 児島 諒昭
 吉野 広大
 萩原 孝一

【各分野 分野長】

地域創生・安全工学分野
 海洋土木工学プログラム 教授
 酒匂 一成

環境・エネルギー分野
 建築学プログラム 准教授
 鷹野 敦

医療・福祉工学分野
 化学プログラム 教授
 伊東 祐二(兼務)

先進物質材料開発分野
 化学工学プログラム 教授
 二井 晋(兼務)

天文宇宙分野
 機械工学プログラム 教授
 片野田 洋(兼務)

【共同研究講座】

CRS資源循環システム共同研究講座

研究代表者
 海洋土木工学プログラム 教授
 山口 明伸

【SDGs 推進事業】

海×島SDGs推進プロジェクト
 海洋土木工学プログラム 教授
 山城 徹

(施設名) センターの主な設備	
CAD/CAM室	3次元CAD/CAMシステム
機能創成室	3Dプリンタ3次元計測器
工作室	作業台ボール盤保管棚

お問合せ先

鹿児島大学大学院 理工学研究科
 建築学棟1号館 1階 事務局
 E-mail :kotozukuri@gm.kagoshima-u.ac.jp
 HP : http://kotozukuri.eng.kagoshima-u.ac.jp/
 TEL : 099-285-7689 (特任専門員 橘)
 TEL : 099-285-7363 (事務補佐員 白瀬)

事務局の主な業務

- ・センターの管理運営
- ・研究会の支援
- ・地域課題の取組支援
- ・研究インターンシップのコーディネート

令和4年度 研究部門協力教員名簿

No	所属	氏名	地域創生・安全工学	環境・エネルギー	医療・福祉工学	先進物質材料開発	天文学宇宙
1	機械工学 【8名】	片野田 洋		○			○
2		上谷 俊平	○				
3		木下 英二		○		○	
4		熊澤 典良	○				
5		佐藤 紘一				○	
6		西村 悠樹	○				
7		洪 定杓		○			
8		松崎 健一郎	○				
9	電気電子工学 【9名】	青野 祐美		○		○	
10		大島 賢一					○
11		川畑 秋馬		○			
12		田中 哲郎		○			
13		西川 健二郎					○
14		平山 斉		○			
15		福島 誠治					○
16		堀江 雄二		○		○	
17		山本 吉朗		○			
18	建築学 【11名】	鯨坂 徹	○				
19		木方 十根	○				
20		黒川 善幸	○				
21		小山 雄資	○				
22		塩屋 晋一	○				
23		曾我 和弘		○			
24		鷹野 敦	○	○			
25		二宮 秀與		○			
26		松鶴 さとみ		○			
27		増留 麻紀子	○				
28		柴田 晃宏	○				
29	化学工学 【9名】	五島 崇		○		○	
30		鮫島 宗一郎		○		○	
31		下之蘭 太郎		○		○	
32		武井 孝行				○	
33		田巻 孝敬	○			○	
34		中里 勉		○		○	
35		二井 晋		○			
36		水田 敬		○		○	
37		吉田 昌弘				○	
38	化学生命工学 【12名】	石川 岳志			○		
39		上田 岳彦				○	
40		門川 淳一				○	
41		金子 芳郎		○		○	
42		隅田 泰生			○	○	
43		中島 常憲				○	
44		橋口 周平				○	
45		橋本 雅仁				○	
46		山元 和哉				○	
47		吉留 俊史				○	
48		若尾 雅広				○	
49		満塩 勝		39			○

No	所属	氏名	地域創生・安全工学	環境・エネルギー	医療・福祉工学	先進物質材料開発	天文学宇宙
50	海洋土木工学 【11名】	安達 貴浩		○			
51		伊藤 真一	○				
52		柿沼 太郎	○				
53		加古 真一郎		○			
54		木村 至伸	○				
55		小池 賢太郎	○				
56		齋田 倫範		○			
57		酒匂 一成	○				
58		三隅 浩二	○				
59		山口 明伸	○				
60		山城 徹	○	○			
61	情報・生体工学 【9名】	岡村 純也			○		
62		小野 智司			○		
63		鹿嶋 雅之			○		
64		加藤 龍蔵			○		
65		山下 和香代			○		
66		吉田 秀樹	○		○		
67		王 鋼			○		
68		大橋 勝文		○			
69		松元 隆博			○		
70	物理・宇宙 【4名】	小山 佳一		○		○	○
71		野澤 和生				○	
72		半田 利弘					○
73		三井 好古				○	
74	化学	伊東 祐二			○	○	
75	生物学	内海 俊樹		○			
76	地球科学	礼満 ハフイーズ	○	○			
77	共通教育センター 【4名】	伊藤 昌和		○		○	
78		今井 裕					○
79		大野 裕史			○		
80		塗木 淳夫			○		

<本報告についてのお問合せ先>

国立大学法人鹿児島大学大学院理工学研究科
地域コトづくりセンター事務局

TEL：099-285-7689, 099-285-7363

E-MAIL：kotozukuri@eng.kagoshima-u.ac.jp

ホームページ：

<http://kotozukuri.eng.kagoshima-u.ac.jp/top/>